



双葉三共株式会社 事例紹介

令和6年2月5日

名称：双葉三共株式会社（FUTABASANKYO Co.,Ltd）

創業：1984年10月

住所：広島県東広島市西条町上三永535-21

敷地面積：21,000m²

①処理工場（原料発酵処理施設）：3,332m²

②製品工場（製品発酵製造施設）：4,364m²

処理能力：150MT/日（下水汚泥，生ゴミ，コーヒーかすほか）



双葉三共 沿革



■ 1984年
産業廃棄物処理を目的に設立

■ 1985年
特殊肥料製造・販売業届け出
広島県産業廃棄物処分業許可取得
広島県産業廃棄物収集運搬業許可取得

■ 2000年
広島県一般廃棄物処理施設設置許可取得
汚泥発酵肥料（フタバソイル）を普通肥料登録

■ 2001年
第三北工場を増設し、処理能力を**100トン/日**にアップ

■ 2005年
再生利用事業者登録

■ 2015年
ツネイシカムテックスグループに加わる

■ 2020年
バイオスティミュラント材（ビール酵母＋還元鉄）混合特殊肥料「スーパーバイオX」販売開始
食品リサイクル法に基づく再生利用事業計画事業者として認定
ベトナムへの輸出開始

■ 2022年
技術革新に伴い、処理能力を**150トン/日**にアップ
ペレット製造開始
全国販売網の構築を目指し北海道への販路開拓開始

■ 2023年
新しい廃棄物処理（堆肥化）技術としてミズアブの飼育研究を開始

■ 2024年
アサヒグループ（食品）と共同開発したビール酵母入り汚泥肥料を販売開始

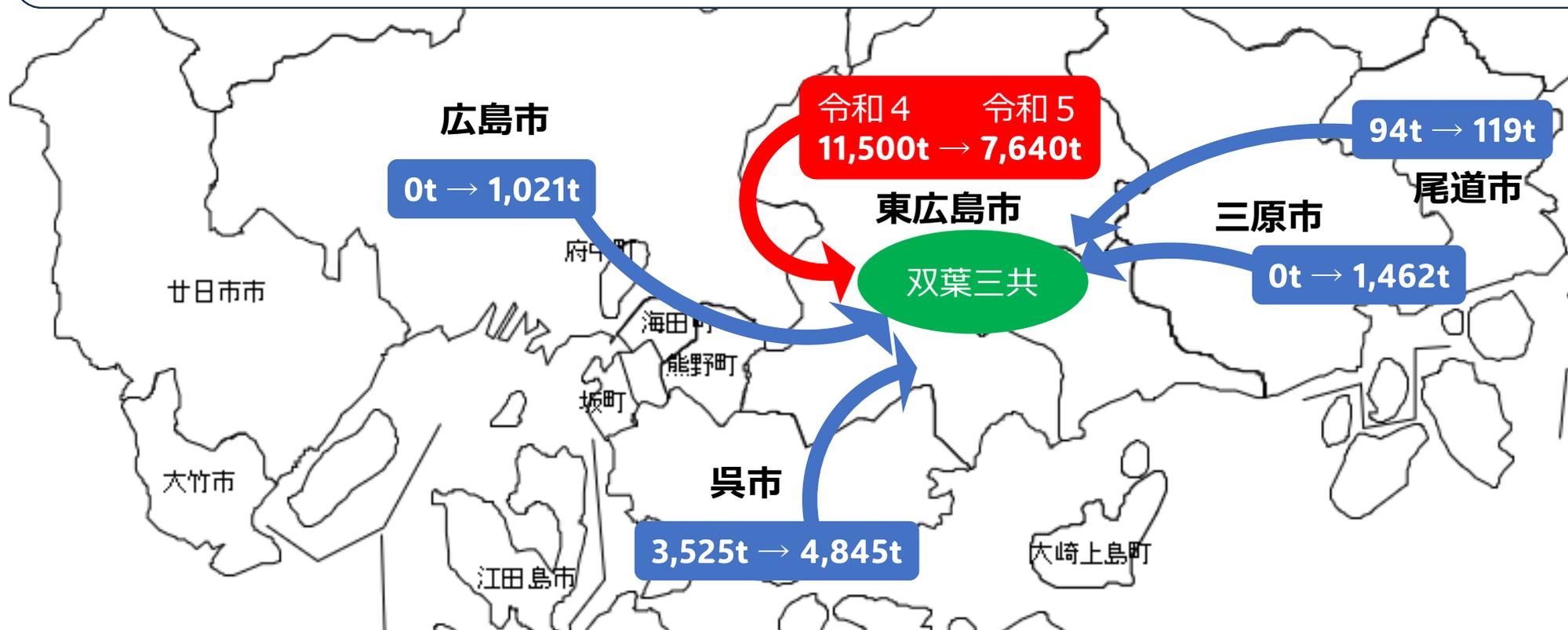


令和5（2023）年は、約**15,000トン**の下水汚泥を堆肥化（1月～12月）。

新規に堆肥化を受け入れた広島市や三原市に加え、既存の尾道市や呉市は堆肥化量を前年から増加させたものの、全体では前年比**▲33トン**の微減。

（令和4年全体：15,118トン）

東広島市からの拠出量が、**▲3,860トン**減となったことが大きな要因。



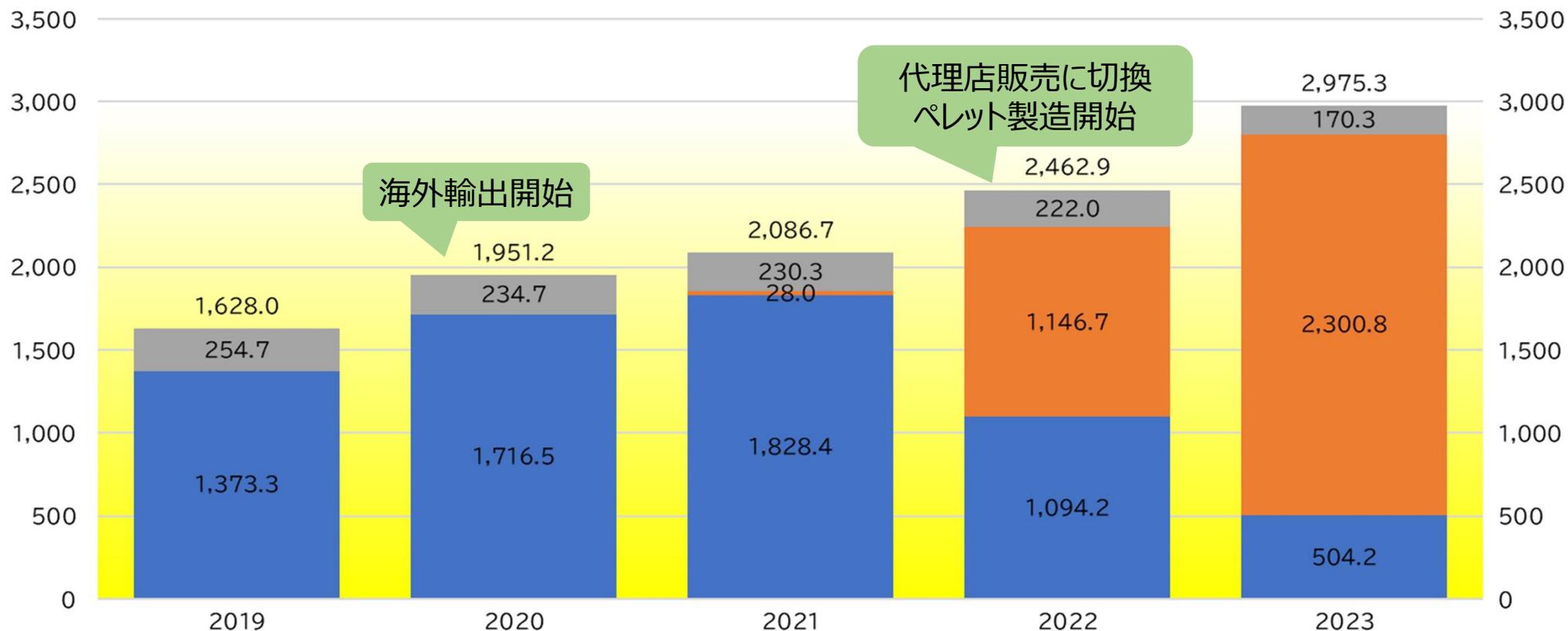
双葉三共の取組み 技術編



双葉三共の取組み 販売編

自社製汚泥肥料販売量(トン)

■フタバソイル ■ウルトラエックス ■その他



'19年から+80%強の販売量増加。

外部要因としては、中国政府による化学肥料輸出制限 ('21年～) , ソ連のウクライナ侵攻 ('22年～) による化学肥料の不足, 農林水産省の「みどりの食料システム戦略」効果などがある。

内部要因としては、海外販路の開拓 ('20年～) , 北海道販路の開拓および代理店販売へ切換 (小売販売を停止 ; '22年～) , ペレット製造開始('22年～)などが挙げられる。